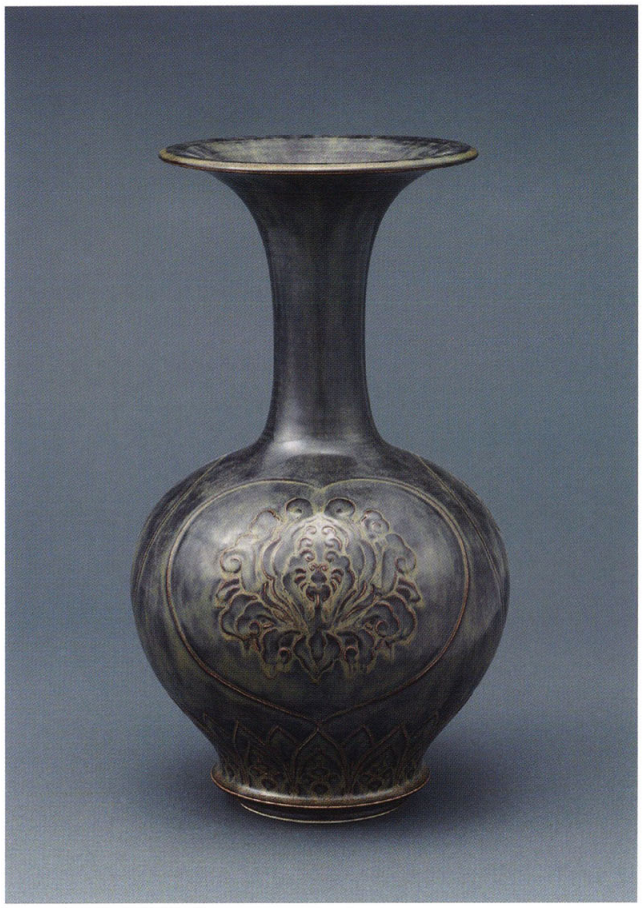
55 《黒釉窯変花文花瓶》　一点

昭和前期　陶磁

径二二・七、高四〇・〇

胴部三方に図案化された花文を配し、下部には連弁文をそれぞれ陽刻で表した花瓶で、口縁部から胴部にかけての抑揚のある器形に、黒釉の上から失透ぎみの黄土色の釉薬が薄く掛かる。図案などから昭和初期の加藤土師萌を思わせる作風であるが、作者の特定には至っていない。深みのある重厚な釉薬表現、エッジを強調した高度な彫刻技術など、いずれも相当な技量のある作者であることは確かである。本作は秩父宮家旧蔵品で、昭和二十年（一九四五）七月二十日、勢津子妃が御殿場御別邸から上京された折、昭和天皇・香淳皇后より贈られたと伝えられている。



56 松田陶石《鉄砂釉草花文花瓶》　一点

昭和六年（一九三一）　陶磁

径二二・八、高三一・一

本作は昭和六年（一九三一）に開催された商工省第十八回工芸展覧会に出品され、宮内省買上となったもので、当時の商工省展に出品された陶磁作品の一傾向を示している。直線と曲面で器形を構成し、装飾的要素を簡素にまとめ上げた、典型的なアール・デコ様式による陶磁作品と言えるが、このような現存作例はあまり多いわけでなく貴重である。作者の松田陶石の履歴については京都の陶芸家であったこと以外は詳らかではないが、この当時の商工省展のほか、同七年の第十三回帝展へ出品していることから、若手の実力作家として認められていたようである。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

1920s-30s モダン・エイジ ―光と影の造型美
三の丸尚蔵館展覧会図録No. 70

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社 東京美術
翻訳　黒川廣子
発行　宮内庁
平成二十七年九月十二日発行

© 2015, The Museum of the Imperial Collections, Sannomaru Shozokan